



泰時明斷錄

四

~ 13
3367
4



13
3367
4

北條泰時明新録第一輯卷之四

東都

松亭金水編次

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

第七回 婦婦の嫁入

鍛者鍛者の夏夏の烈烈火火と畏畏むむはは漫漫者者の冬冬の寒寒水水と畏畏むむはは名名と好好むむ者者の
安安危危と顧顧むむ欲欲みみ耽耽るる者者の生生死死と顧顧むむはは古古語語ののもも宜宜むむ哉哉凡凡そ
人人嗜嗜欲欲欲欲慎慎むむととはは百百年年の生生涯涯易易く嗜嗜欲欲とと縱縱みみすすはは一一日日の易易
くく比比粵粵みみ京京都都四四條條河河原原の片片傍傍みみ館館とと沽沽てて世世流流送送るる鈍鈍吉吉ととははの
ありあり渠渠不不幸幸めめとと父父母母みみ速速くく後後れれ弟弟一人一人ありありけけらら後後次次傳傳ととああんんのの故故
多多るる年年十十三三の秋秋の頃頃より三三條條多多木木綿綿屋屋八八年年季季奉奉公公到到りりててのの季季ととああららむむ
三三寸寸のの様様儀儀あるある若若ののううてて主主人人の心心みみ付付ひひ道道たたららぬぬおおままがが家家をを

北條泰時明新録第一輯卷之四

あり孤あると音喜の憐れ肝煎とある一富家へ妾奉公お出せしが集十三の
 とは父母成喪ひまより子傳奉公と做し十六七の頃よりその祇園傍りの茶
 坊ありて飲食の持運びまゝ酔客の對身とあり一時の客み誘ひまゝと
 宇治の虫見四條の涼納或ひ鳩原の傾城局と遊觀歩行成務とて
 女のみ業のいふも更あり何の能もあらず水性の三流まゝとてその癖の失
 びまゝの始りて愛りまされ後はい疎ましの然らむとて己より窮屈
 ありも堪がらて暇と請ふともあつて一年とい落着け僅の同ふ此は彼知と
 四五軒へ主成換まればその田毎お入目おかりて尋常るゝ給銀と世々ののら
 身中も着びる程もまゝ暇とて此は衣食客とあり飛へる音喜心おま
 せり。渠は標致も他は勝まて物のいひまゝと奉動とてそのと劣まらるゝを

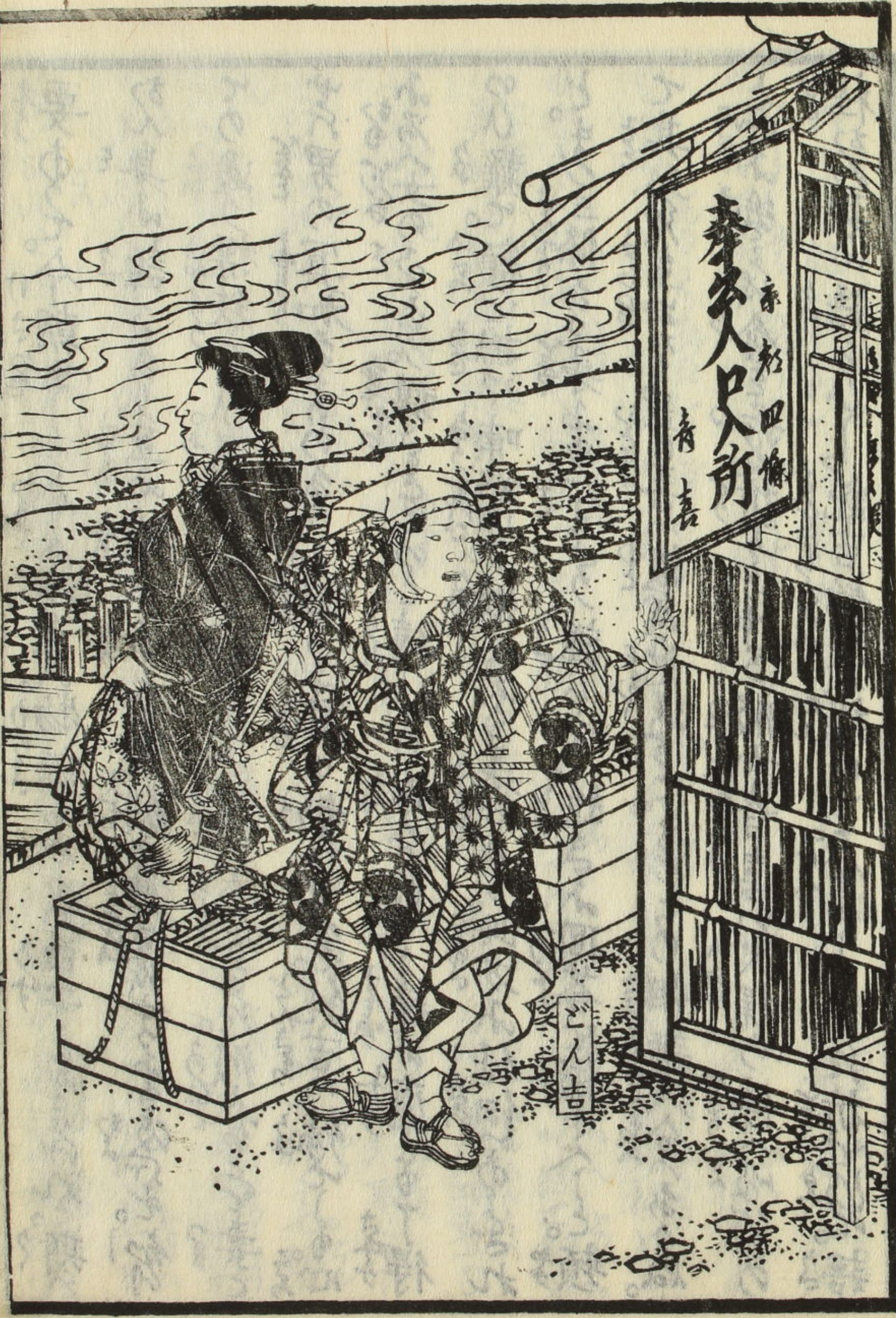
斯尻の落着ぬる氣随ふ育ちて朝暮の勢めよ堪は思ふも多あり。可詮
 ろのう人如何なる方へ肝煎と做まとも一年と六脉へ下。鈍吉のいと思ふ
 性質をれとよく拵了と夜食と緯罔也。そのう人心憐候りて。いとも優ま
 雄子なれ背い低く色黒く醜くけねとも支りてい。を誠めと身受ら
 渠が方へ嫁へるゝ結句今も倍多ると一時女小禪ふ女の託言が醜
 き心お收しとせむねと音喜老婆が世流とのひ此程所へ成廻りて
 辛ト果する折るまゝ免も斯もと回答けるや音喜のまづ一方の出来ぬ此
 上六鈍吉の心の甲冑問のまあり。と支が便宜と伺ふ一日雨のこのま降で
 寒さの殊も烈しき鈍吉の例の如く笛吹まを来し音喜が門を荷
 と卸し懐ふと入る。姑はよ今日の雨降て常より寒さ倍と。温湯

あつば振るゑのへとのひい入る見返りて。鈍吉ぬら早うし。温湯のあり
 酒ものまぐく腰どうのめとのひい茶碗へ汲で出を流茶をうと洗るひ
 息吹ふまぐく喫さう。音喜、外面どうり見やうて今朝う寒さの例ふ
 あり。身ふ濡ぬると思ひしが。波見ぬ今の間ふ雪ふふありじぞ。斯う
 ひあ巨燵ふあ。湯豆腐の葱鍋。一盞と喫する。世の樂さといひめらる。
 むん身いこの世へ何ふ来さ。金造りも程のあり。今日休を吾と俱ふ。一盞
 とのうてあ。下戸なれ詮方は。雑炊して振るんれとのへ。鈍吉ち笑ひて。
 姑に。然の悪くまのひそ。世界の雨の降もせぬ。天道さぬ元日あり。大晦日
 まも寒さ暑さ。厭を照しぬるさや。あつば人として安閑と業も
 せびと在んといふ。勿躰さ。と思ふの多雪も雨も厭ひる。斯活業のあつ
 ありとのへ。音喜の点頭て。齒莖でか。とち笑ひ道理多。最あり。其
 心け成忘れね。世ふ不自由いせぬぞ。あん身の常の人ふ似ぞ。年ま
 若き身てのち。拵了三昧形態も。構を冥利とあひの賢人とあ
 りのあつば。然い人あ。一癖あり。閑さる雨のあつばのあつば。昔聖人
 とあつばの言葉ぬも。人い三千の妻て娶へ。子多ぬ。親への不孝ありと。
 一博識の話説ふ。閑つ。さ。世間の人毎ふ。親孝行の心あり。え。いま
 其身も固まらぬ。あ。ま。女房どののの。鳴。唯やうん。狂歌の。今。内
 仲人あ。ふ。店と借り。電より。先。女房と戯れ。さ。も。嘘。あ。つ。ば。と
 阿々。と。ち。笑。ひ。い。あ。ん。身。聊。の。閑。目。多。の。今。の。知。く。女。房。の。い。ぬ。い
 人の。閑。道。多。り。女。房。と。持。つ。着。さ。り。會。さ。う。入。目。の。倍。ふ。か。る。ぞ。と。あ。ひ。の。い

あつば振るゑのへとのひい入る見返りて。鈍吉ぬら早うし。温湯のあり
 酒ものまぐく腰どうのめとのひい茶碗へ汲で出を流茶をうと洗るひ
 息吹ふまぐく喫さう。音喜、外面どうり見やうて今朝う寒さの例ふ
 あり。身ふ濡ぬると思ひしが。波見ぬ今の間ふ雪ふふありじぞ。斯う
 ひあ巨燵ふあ。湯豆腐の葱鍋。一盞と喫する。世の樂さといひめらる。
 むん身いこの世へ何ふ来さ。金造りも程のあり。今日休を吾と俱ふ。一盞
 とのうてあ。下戸なれ詮方は。雑炊して振るんれとのへ。鈍吉ち笑ひて。
 姑に。然の悪くまのひそ。世界の雨の降もせぬ。天道さぬ元日あり。大晦日
 まも寒さ暑さ。厭を照しぬるさや。あつば人として安閑と業も
 せびと在んといふ。勿躰さ。と思ふの多雪も雨も厭ひる。斯活業のあつ
 ありとのへ。音喜の点頭て。齒莖でか。とち笑ひ道理多。最あり。其
 心け成忘れね。世ふ不自由いせぬぞ。あん身の常の人ふ似ぞ。年ま
 若き身てのち。拵了三昧形態も。構を冥利とあひの賢人とあ
 りのあつば。然い人あ。一癖あり。閑さる雨のあつばのあつば。昔聖人
 とあつばの言葉ぬも。人い三千の妻て娶へ。子多ぬ。親への不孝ありと。
 一博識の話説ふ。閑つ。さ。世間の人毎ふ。親孝行の心あり。え。いま
 其身も固まらぬ。あ。ま。女房どののの。鳴。唯やうん。狂歌の。今。内
 仲人あ。ふ。店と借り。電より。先。女房と戯れ。さ。も。嘘。あ。つ。ば。と
 阿々。と。ち。笑。ひ。い。あ。ん。身。聊。の。閑。目。多。の。今。の。知。く。女。房。の。い。ぬ。い
 人の。閑。道。多。り。女。房。と。持。つ。着。さ。り。會。さ。う。入。目。の。倍。ふ。か。る。ぞ。と。あ。ひ。の。い

うねねども。この世へ生る人母小女もまじ。男もまれ。その身小娘。福
 祿あり。女房の女房の福祿あり。この世へ苦勞あり。然れども
 拵了して。子供四五人あるもの。まじ。匹偶あり。大晦日の勘定。大
 概差ひる。後の子子の福祿あり。後知るべし。終ふむ。と呵々と
 まさうち。第六鈍吉の熱悶て。心裡小徹。うけり。こと。亦呵々と。失
 ひて。そのおん身。宜ふ如し。女房小食する。入目。厭ひ。獨住。を。形あり
 ねども。第一小吾々。その日暮。の貧乏人の女房。あるんとの。人
 者鮮あり。適あり。六北方で。進まば。兎も角。も。黄金佛の光り。ある。ね
 一切衆生の。ひつる。ため。の。よし。よ。娘々。あり。肝煎。して。持。と。後。ね
 とのひ。ひ。て。や。と。と。館の。荷。担。げ。ま。と。ん。と。す。る。音。喜。の。止。め。おん。身

今。の。が。真。言。を。よ。り。た。人。の。つ。れ。違。へ。ん。と。ま。じ。僥。倖。の。節。姫。入。の。は。て
 探。し。ぬ。縁。女。あり。這。い。その。自。出。た。人。あり。と。父。中。の。お。や。も。死。別。と
 幼稚。と。た。より。艱。苦。を。成。長。る。ま。じ。六。世。間。の。酢。も。其。の。辨。へ。く。後。令
 貧。しく。暮。は。とも。その。良。人。の。心。を。優。へ。た。あ。六。何。ぞ。厭。ひ。結。り。少
 の。祿。あり。と。朝。暮。心。で。遣。り。ん。より。貧。し。き。家。を。倍。ある。と。日。来。の。そ
 居。る。お。ね。おん。身。あり。た。縁。あり。ん。と。あ。ま。た。故。ふ。ま。と。ま。じ。裏。問。の。の
 小。首。を。傾。け。貧。乏。人。と。好。と。の。入。世。小。奇。あり。人。あり。けり。その。人。の。年
 幾。箇。も。ま。じ。如何。ある。風。俗。を。問。へ。音。喜。の。点。頭。て。その。則。別。人。あり
 ぞ。の。程。の。家。小。食。客。日。毎。おん。身。も。認。ま。る。人。あり。今。日。の。お。の



暮るる頃飯り来まふ。於此へ例も醉蕩けて。翌の炊きおするところ。鈍士が帰らぬまで。燈火を灯すお油を。その口序を買て。柄抄の水もあ。こまも口序お汲て。火桶の傍り成動も。顔をて良人と會釈へ。鈍吉の思も。渠が色香と愛も。それ等紙水の中。憂と憂。草鞋のまも。夕餉と寝る。夜もおま。或ひい。肩辟張。按摩雇も。錢多。接。と突物を背應と回答て。鈍吉の肩と接。腰と捺。奴僕お。責遣は。此年三十。女小遭。の。他小勝。標致。婀娜。愛敬。己心の進。折。三弦。その頃世間。伊与節。の。唄。

ど。濃。弾鳴。声。漫。風情。あ。美音。あ。鈍吉。細。眼。尚。細。餘念。あ。妻。あ。ち。眺望。在。物の貴。心。着。内外。被。任。て。月。の。設。け。残。り。多。か。此。が。懐。お。収。む。ど。小。擲。竿。の。流。石。の。衣裳。み。ど。減。買。ふ。と。も。良。人。お。告。る。と。も。多。く。氣。隨。お。目。張。を。送。り。ける。夫。常。言。小。い。ふ。と。あり。才子。の。必。む。佳。人。お。遭。む。駿。馬。痴。漢。を。乘。り。走。る。夫。婦。の。縁。の。奇。き。き。き。今。今。さ。ら。の。あ。げ。も。非。ざ。れ。と。似。合。う。縁。と。結。ぶ。後。お。必。む。と。禍。あ。る。と。和。漢。古。今。お。先。縦。あ。り。と。ま。ば。程。近。人。々。鈍。吉。節。が。如何。ゆ。楊。貴。妃。も。欺。く。女。と。渾。家。お。持。ち。朝。旦。の。案。妻。も。ま。如何。み。ね。か。る。男。と。良。人。お。持。ち。る。喻。へ。の。朝。旦。の。案。

山子小魚縁どくありと。冷々笑ふも多々且つ。まこ被胎屋の愚鈍も
 ほど。年来拵了て小金と持り。丈成持も妻とあり。大く遣ひ失ひ
 ぐぐ。再宿換とする。あわらんと。譏る人さく妻とあり。然れも弱き
 人々等。忌々し。鈍吉よ。阿蘭陀舶来の硝子と逆ま。釣せし。と
 女と將て来て。渾家と。是視よ。う。髪髻悪さも憎。闇の夜ふ
 草鞋の切と投込よ。其処等。小犬の糞あ。戸口ふ。冷々淡吹せよ。都
 て人の能と嫉。羨む。道理と。ぬ。浮浪子弟の癖。鈍吉人並
 小劣り。身も。斯艶麗る。渾家と持。心憎くも。故あ。且ぬ
 奉動と做す。と。鈍吉深く。恨。且腹立。の。性来
 氣質。人小敵。齊力。腹立。の。儲止。の。か。と

一日美次郎の這般嫂の来り。より。一回。面會せ。主。日
 の暇。酒。取持。四條。兄。鈍吉。家へ。訊ひ。来。小
 の。目。鈍吉。早く。高。ひ。お。家。あ。儲。美。次。郎。の。嫂。の。か。此。小
 初。對。面。の。禮。と。述。頓。来。て。歡。び。成。の。い。答。な。れ。ど。日。毎。主。用。の。多。く。と
 意外。小。沙。汰。と。あ。ぬ。怠。り。免。れ。ぬ。と。陪。言。の。頓。て。齋。の。樽。殺
 と。並。へ。聊。の。東。西。あ。れ。ど。這。回。の。賀。美。と。演。る。ま。で。の。驗。あ。て。い。る。り。
 受。納。め。あ。ひ。ね。と。い。ひ。あ。ら。う。傍。お。置。る。祇。包。と。ち。披。き。紙。お。つ。じ
 の。成。さ。う。お。這。へ。姉。君。へ。奉。る。す。縞。柄。と。能。も。あ。ら。ね。ど。常。着。お
 あり。の。歡。び。あ。ら。う。と。お。す。成。お。此。の。微。笑。と。い。ひ。ら。る。種。々。の。賜
 の。他。人。で。か。一。同。胞。の。斯。美。理。堅。く。あ。ら。ぬ。却。て。愧。入。り。情。の。こ。い。ひ。に

取て戴き包き紙の間より。さし覗き見よ。細縞と糸織の帯地と
 あり。此の一向飲びて。その品々日外あり。飲くと必ひ居り。ふくも心ふ
 協ひ。その賜を志の深くも届き。と繰返し。礼の詞美
 次郎も俱ふ。歡び折角調へ来り。姉君の心ふ。協ふや否や。覺束多。
 必ひ。斯を。歡び。此身。如何。を嬉しく。作り。
 とのひ。烟草。せ居。於此。其処。居の。同胞。賓客。或
 歡待。やと思。念。獨。身。心。任せ。良人の。歸。侍。ど
 ま。日の。高。帰。来。時刻。の。ま。齊。の。酒。を。歡待
 を。知。次。炭。も。心。急。常。火。徒。悪。心。地。の。扇。さ。さ
 その。折。裏。口。入。来。喜。喜。美。次。郎。と。貞。念。縁。面。初

の。微。笑。衝。と。入。り。美。次。郎。ぬ。未。ぬ。久。逢。ぬ
 其。も。立。派。若。衆。あ。あ。面。換。り。途。中。逢。ぬ。知。り
 う。ん。の。美。次。郎。慇。懃。久。逢。ぬ。情。と。述。へ。且。の。程。の。媒
 の。忝。漸。々。今日。も。その。歡。び。暇。と。乞。て。忝。り。ぬ。の。音。喜。も
 能。ひ。挨拶。の。厨。へ。か。此。と。何。う。ん。低。語。て。急。外。方。へ。出
 る。歡。待。の。要。あり。頓。て。音。喜。分。付。傍。近。料理。屋。り。吸。物
 取。肴。刺。身。も。其他。二。種。三。種。廣。蓋。載。持。て。来。ぬ。か。此。の
 何。う。持。持。兄。が。家。在。何。う。仕。方。も。あ。り。れ。ど。商。ひ
 り。ま。ど。飯。り。の。寛。々。甘。ま。一。献。酌。あ。り。に。美。次。郎
 額。と。撫。て。怪。ぬ。歡。待。よ。美。理。及。ぶ。内。輪。の。者。ち。拾。わ。れ。然。の

禮と述々去んとするに、此の美次郎が袂と楸へ常々住く人あるを
 と淋しくも日を送るふ今日もあん身が訊来あひて日來の鬱氣を暗
 りと面白く飲酒の酔ふ衆としてあつたを互に言れり言のすれ
 尚氣ふ當るとあつとも酒がのする戯言と聞流しをめれり今をうら
 解めひいれ急ふ飯らんと宣ふ心は澄ぬとありあじ吾侪が互に任せん
 今ッ珍々あつて無理ふ蓋と進むる視て音喜何ゆ口裡ふ言々して
 外方へをりわね美次郎は姑に何方へ往ぬ候ぬとつて承耳のうけぞ
 足と早めて出退まば此は是とつていふ箇に敵と詭り下ふも持て来ね
 催促ふ往らふを捨てたね夫を構はざるの蓋と干して吾侪ふめられ
 とのふ美次郎固く辞し元来多々の嗜まぬ酒と姉が歡待のふ承牽れ

彼の外ふ過しむる今一口も咽へ通らば許しあへと受も敢は美次郎が
 ふびとて飲ぬとあるは強ふ責るも鳥許るる女子ぞと心ふ察見めふられ
 ど初見衆のその日よう斯馴睦とあするも他生とあうの縁めあ良人の
 弟ふ在るに言はれたるの屢も胸ふ脹るものあつ。物堅くうらあ人の
 氣性も明しといふとを嬉しと圓答あはつ人の笑ひの種あつと堪え忍
 ぶも世間の美理二條ふ滅まれ消ぬひ小身と焦し涙の川ふ沈むもの悒
 ね原ひ然昔ふのひなきも面あそ人あを血の涙推しあ人といひうけく
 美次郎が負うち成るこの美次郎は幸あつて商人の下奴とあつ。商賈買賣
 のふ家のそ業とあるせどその志は武まも尚劣らぬ風あつて逞しけむの
 怨言と因と考し忽地心中ふ怒り公生下。巻と握り力痛腕ふ彰はれ聊堪

難けれど、嫂とのひ今日初め遭ふ一人をといひ、戒め、要時こそ免れ、
 角の憤怒の情胸に迫り、此の長くを居る自ら戒め、くを不慮にとも
 発り、あゝ兄貴の首守小騒ぐて、いり、済むと胸を捺り、姉はよ、吾と尋常の
 浮ら雄子とさひあふ、よ、酒を酔う、心乱と人倫の道は背き、と
 弟、あゝ人の拘猫、ま、侍らざる、其処放し、あゝこのひ、袂に杖と、切で暇を乞
 ね、まゝおて足と、早め飯りや、迹見送る、頼と、うらうら。お此の、酌で二三杯
 うち重ね、舌うち鳴り、見ろ、ゆめ、似ぬ情、あゝ、ま、ま、ま、以来、足踏ども
 さ、ぬ、やう、ふ、計らんと、獨言を居る、処へ、音喜、喘ぎ、走り、ゆて、見ろ、小、美次
 郎が、居らざる、ま、ま、ま、客人の、ゆり、や、先刻、の、身が、言葉の、端々、お、在る、
 邪魔、あゝ、んと、粹と、通して、忘れ、の、せ、面持、お、立、や、も、昔、把、る、杵、柄、の、

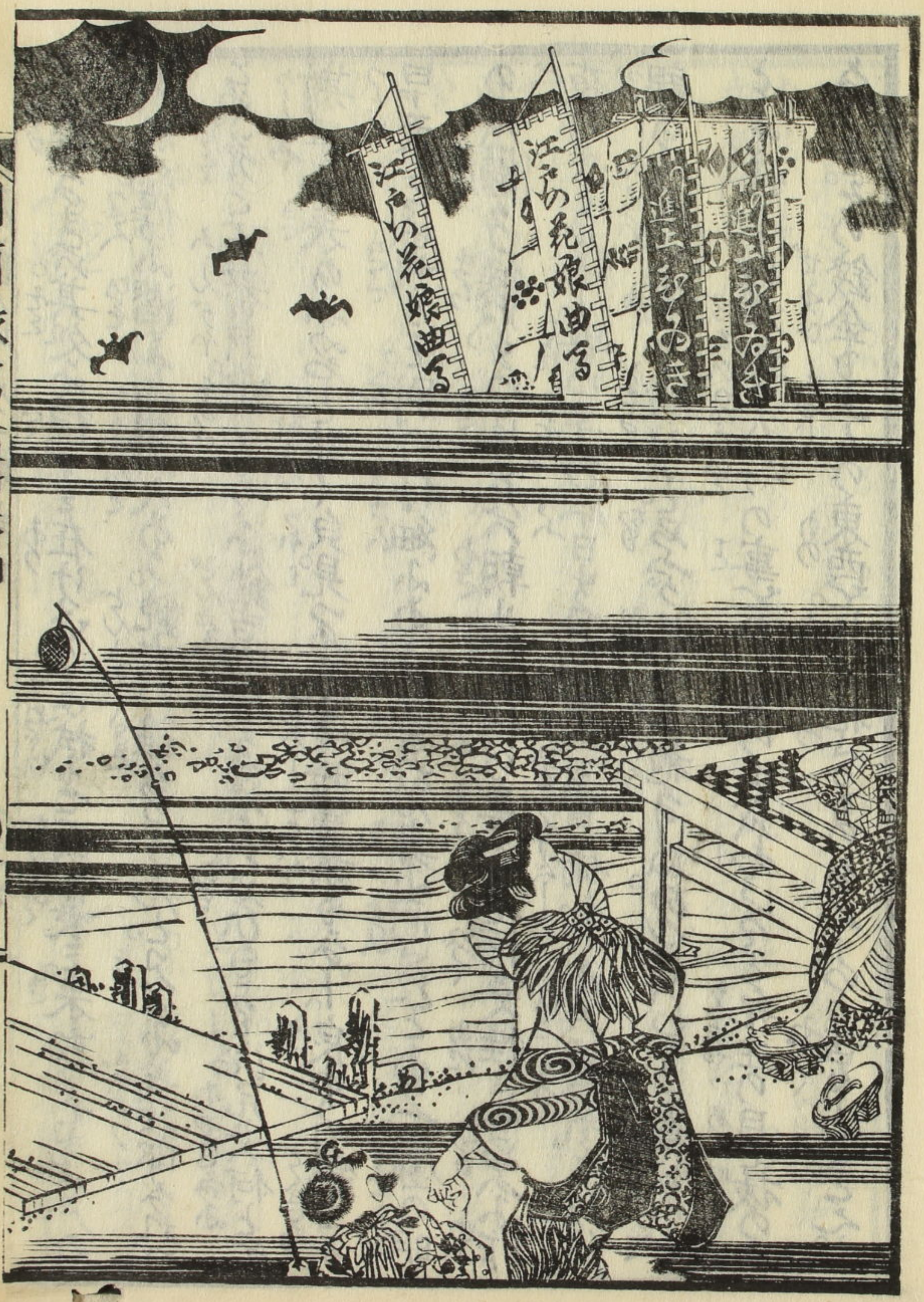
情の道も疎う、ぬ、老はあゝ、んと、誇り、ふ、い、い、い、此の、笑、ゆ、せ、氣、縛、ま、
 る、て、賜、り、て、も、情、あゝ、づ、の、銅、佛、を、雅、心、の、一、点、も、あ、る、な、警、聾、お、第、一
 雄子、とも、か、い、づ、い、と、可、惜、口、へ、風、成、入、ま、も、今、更、お、悔、い、く、あ、の、こ、
 と、う、ち、腹、い、そ、の、音、喜、の、微、笑、さ、の、ま、る、腹、と、ま、ひ、を、彼、人、の、兄、お、勝、り、て
 萬、如、在、の、あ、う、づ、れ、ど、了、得、お、ん、身、の、嫂、あ、る、辞、む、の、元、来、理、あ、り、然、ま、ま、お、
 め、ひ、い、あ、る、猶、未、長、く、時、節、と、視、て、言、寄、り、あ、る、何、時、ま、で、か、強、二、回、回
 答、と、あ、る、な、ど、話、説、と、り、り、鈍、吉、の、荷、成、擔、げ、の、飯、り、来、て、見、ま、を
 座、敷、の、酒、散、平、生、の、あ、る、を、取、散、し、る、今、日、の、何、方、の、賓、客、が、尋、ね
 て、来、し、と、問、か、ま、い、お、此、の、こ、直、尻、目、お、う、け、て、お、ん、身、が、弟、の、美、次、郎、と、
 酒、散、あ、る、と、齋、し、来、て、祝、美、あ、り、と、の、程、お、吾、侘、の、か、う、ぬ、人、あ、る、と、お、ん、身、が

弟と聞かねば。うち惜まば。僥倖ふ。音喜姑の来ぬ。夫と憑き。料理張り。寄せ。毒酒。振舞ふ。みお身。固来。同胞。めて。癖。知り。て。在。す。な。れ。と。吾。侪。の。始。り。て。遭。ふ。と。バ。気。象。も。癖。も。知。る。と。た。う。と。尋。常。の。人。と。の。心。得。て。會。衆。一。の。盡。の。数。の。積。り。つ。けて。あ。う。ま。の。こ。の。言。わ。し。果。の。吾。侪。と。無。體。ふ。捕。へ。姑。の。視。る。目。も。厭。ひ。も。戯。ふ。と。法。も。過。て。と。腹。ま。く。め。り。う。う。と。耻。め。り。う。と。大。お。怒。り。て。卷。成。揚。げ。吾。侪。と。打。ん。と。せ。一。知。と。姑。の。推。考。り。止。め。一。互。ふ。無。事。を。怪。我。も。せ。ば。儲。め。の。人。も。生。醉。の。本。性。差。り。ぬ。喻。へ。て。影。護。や。あ。ひ。け。ん。姑。鹿。と。先。刻。ふ。飯。り。ぬ。お。ん。身。の。丈。も。高。く。色。白。く。と。立。派。な。れ。と。心。の。豹。も。劣。り。う。見。掛。倒。し。の。弟。に。以。来。い。ろ。の。家。へ。倚。せ。ぬ。然。へ。あ。れ。ど。も。同。胞。

の。と。將。忍。び。ぐ。と。あ。う。吾。侪。も。暇。と。賜。び。ね。り。お。ん。身。へ。日。毎。家。あ。い。在。ら。ば。亦。り。や。来。り。て。難。題。と。ひ。懸。り。れ。ぬ。何。時。ま。を。り。虫。と。堪。えて。居。ら。り。と。道。理。と。言。て。も。聞。入。ら。ぬ。見。え。餘。美。も。近。所。の。厄。に。あ。ま。と。の。受。合。ま。ば。夫。婦。同。胞。耻。と。曝。し。と。人。の。後。指。さ。ま。え。り。身。と。引。み。倍。ま。と。の。あ。ら。じ。と。居。丈。も。高。く。線。掛。け。く。い。ぬ。成。因。で。鈍。吉。の。呆。れ。切。と。小。半。晌。良。あ。り。て。小。首。と。頰。け。と。同。胞。あ。り。あ。ら。う。も。渠。へ。幼。稚。より。彼。外。へ。往。て。折。節。の。訊。ひ。音。信。て。も。俱。み。住。居。し。と。の。あ。く。今。の。如。何。あ。の。気。象。あ。ら。う。と。況。て。酒。と。諸。俱。み。飲。と。あ。け。と。酒。の。う。の。好。光。悪。れ。も。知。り。う。あ。け。れ。ど。常。の。殊。も。信。実。と。の。身。の。獨。住。る。と。案。ど。て。の。逢。し。び。毎。ふ。早。く。女。房。と。持。ね。し。獨。暮。し。の。萬。ふ。就。て。不。自。由。あ。ら。う。

のこむのわろど人の用ひの悪一とて勸むるに数回ありた這回も如何ふ
 ずばやと相譚ふゆたふ折音喜の姑に謀ある都て悪く計らいた頃
 たり穴ありとて諸俱ふ歡びと夫も限らば兩親の亡後の兄のこありと吾と
 大切ふ敬らと他所のいも見も及びぬ貞実者とあひ居りし今日如
 何ある天魔の魅入る然る本動と做しつらん翌の頃ゆたて其こ成語り
 と問ひまの心濟とこ此が嘘ある成の曉らば口管弟と悪くあひて敷圍に
 うち腹立まば此のいとうち笑ひ語りむ往の善けれどもまゝ美次郎お涅め
 られど這般の吾侪と悪さるあひのあめはしと吐け鈍吉の争で渠に涅め
 らしん此方への姑といひ証人ふあつたの成と尚咄々といひあつた喰荒
 ころ挽血ぬふ自さう収めて少りの残さるあめ成播集り頓て夕餉と流果て

了得心地の宜うまをその俵ふち即ち音喜の声を低り喃む此
 ぬ如何なれ斯る嘘成のひのあつた急地その尻が割るあ身も言解あ
 まゝこの老婆も連累せらるるこの迷惑さる向ふのこをこ舌の根
 までのゆれどもあ身が面あふとあめあつた控を居る鈍吉の律美
 一篇の老婆と証人あつた弟恨まゆの必定戯れあつた程のあつた
 せも敢て鈍吉が枕方と信と見返りてか此声と低りて一通り尤も夫
 の吾侪が胸あつた妻にたの翌の朝譚らあまあつた由業とて苦勞は
 あひそと緯もあつたあつた音喜のあつた覚束あつたあつたも暇
 告て己が家居へ飯りる明の鈍吉起て湯の沸のとも候あつた朝餉と
 あつた三條の木綿屋許あつたけるあつた早あつた誰の記は口成敵も



四條河原の
納涼に
九四郎
於此
春情
と

九四郎

あな

七七

了得まゝ其外小徨ずま在けるらむ拭て面と裏と来おらまゝと
 明小傍小潜を窺ふ人あり鈍吉誰あつんとつら小美次郎を
 ちやと不審負此方もら小鈍吉居るらとあひもらび兄安何とそ
 斯早く来のふあやと駭く良見つるを霎時言葉もなし良の鈍吉
 早天てら来ると別の仔細小わらねずかん身小問とあつて塵の明
 の灰屑を候ぬまづ閑を朝も何の要の何方往らるら小昨
 夜のまゝるる吾の三子の今日まの傾城を買術を人の虚気といふ
 親の位牌と守り毀つとら故の辛抱りぬらん多む奉公の身
 とて怪くぬ奉勤人の事の事と萬の成知ると親主の目と抜の
 むぞその錢金も主人の東西と掠り把らるらるる苦とことと

思ふれぞ兄小胸小應ゆる異見の詞弟何といふも多小愧ら面
 叔然と詞も抑美次郎との年月竟小一回も夜遊びをどよふ
 ろし小昨日嫂の歡ひ小往らる酒と強られ道小背け奉勤と心小
 怒り小合と袖と拂いととと免小角小胸をうつら故小親き家にお
 再び酒と飲け思ひの外小更闌て今ささ小飯らと俱小往ねと
 人の歡むも小嶋原へ往てその夜と明せ成折も折とそその飯ら
 兄小視られとそ成明々地の小什麼の難の昨夜始りてとと
 とも難う誠とせん常小遊所へ入込る人と量らる人面目あつて霎時口
 隠り居らしとら小麿の戸も明頃まると心小急つ小対ひはあ少
 譯ちて遅らしし他所へ泊りぬ決て浮らとあつた不束のとな

の夜毎河原の納涼ふ来り。何時しうか此と言葉とくかて心易くありたり。
 此の元来水性の姪婦九四郎が風雅なる良人鈍吉小競べ云と墨守の
 差ひあり。九四郎もまゝ此と云ふ年々三十三四を色白く鼻高く愛敬
 眼元小溢まわつて。さそふ水あふむ往んとぞや風情のあつたる漫心浮
 と。或は料理屋へ伴ひて酒酌りなまともあり。或は床札の片端に膝と交
 へて浮世の雑談。さうちおも眼も七通下。或は言葉小挑むやと小否
 りあむぬ稲舟の竟み雲雨の情とまびて道ある戀ふ深し。互ふ心浮れ
 け。薄暮よりそ夜更らまを夜毎樂まぬ車ねけ。元と群集の街角で。
 密中ふ物ぐる。その真情と得ざる歎き種々思ひ煩らひけ。か此の
 不圖もひつた彼音喜一人住る。渠と程よく語らる。是れ超るる事

あつらん然れども渠の吾も小媒の媪も容易のひ難し。九四郎
 小物語るふ。九四郎も元知る中より殊小渠が沽業の輕薄か。実少
 り。黄金のそとほ誘は。絆整りぬとやあつんと。夫より九四郎は何と。
 音喜が方入り込。物小仮託少々の黄金と數面をふ。音喜は
 ともかく歡びて檀那と称へ。九四郎と敬ひたり。そふ於て九四郎は
 謀畧ありぬと歡び一日音喜ふち向ひて。如此のより成のひ既か此の
 鈍吉へ身媒とて嫁入し。と。か此より同く。他もぬ認め。迷
 惑くへ。縁も。妙鈍吉の世小図え。白徒ま。身へ對し。この
 報ひも做さぬる。這回の一條圖。吾永くその思を忘れ。鈍
 吉十倍の報ひも做すも胸小あり。諾ひぬと。終ずふ。音喜は

小首と傾け心裡ふあやむ。五五その始り此をの鈍吉へ嫁入りの今
 まゝそまが不義と知り。拙持とんと年甲斐る心小使しとあそねを
 辞むも九四郎ぬ。多く小兼引す。然もあまの意小随ひ後小
 折しをそ此小異見し遠ざうするみ如とのじと沈吟定めて快く若ひ
 たり。九四郎い。歡びて懐中より黄金と申しとほげえさる。バ
 今宵此を持て。その所未え。萬事の程よく特むとをい。くく
 飯りたり。

北條泰時明漸録第二輯卷之四終

